

黄鶴

KAWAMURA

No. 26



川村幼稚園

おすもうさんとおもちつき

川村中学校・高等学校

研修旅行

英國語学研修

川村学園女子大学附属保育園

『川村ワンドーランド』

オープニングセレモニー

川村小学校

修学旅行

川村学園女子大学

多様な「ひと・もの・こと」に
出会うプログラム

身体を通して文化を学ぶ



学校法人 川村学園



子どもたちに伝えたい 豊かな日本文化 おすもうさんとおもちつき



おすもうさん対幼稚園のお友達。みんなで力を合わせて、勝利をおさめました。

いつもとは全く違った雰囲気の中で、準備や支度にとりかかりました。保護者の方はもちろん、これから川村幼稚園に通うことになっているたくさんのお客様もお見えになります。あれこれと試行錯誤をしながら準備を進め、ドキドキしながら、その日を迎えました。ゆうぎ室で初めて会ったお相撲さんはみんな大きくて、子ども達はびっくりです。体重は4人とも、100キロを超えているということにも驚いていました。それぞれ自己紹介をしていただきあと、「どうしたら強くなれますか?」、「なんでお相撲さんになろうと思ったんですか?」、「おうちの壁で練習しますか?」などの質問に、笑顔

古くから伝わる遊びに親しみ、樂しく遊ぶことは、厄をはらい、福を招き入れようという願いが込められていると言われています。川村幼稚園では、保育の中に、カルタやコマ回し、たこあげなど日本の伝統的な「お正月遊び」を取り入れ、新年の1か月を過ごしています。また、年明けのこの時期には、お正月や祝い事など、「ハレの日」のための特別な食べ物である餅をつく、「おもちつき」を行っています。例年、先生と子ども達でお餅をついてお雑煮を「大獄部屋」のお相撲さんを招いて「おもちつき」をすることがなりました。

お正月や祝い事など、「ハレの日」のための特別な食べ物である餅をつく、「おもちつき」を行っています。例年、先生と子ども達でお餅をついてお雑煮を「大獄部屋」のお相撲さんを招いて「おもちつき」をすることがなりました。



おすもうさんとぺったん、ぺったん。楽しいね！



小学生のお姉さん達もおもちつきに参加しました。



ふわふわで、よくのびるおもちのできあがり。



みんなでついたおもち。ふわふわしていて、おいしそうだね。



応援する子ども達も、力が入ります。



お雑煮は、おうちの方とおいしくいただきました。

川村幼稚園では、日本に伝わる伝統とその中にある礼節を体得するとともに、季節や自然に気づき、すべての事象に感謝の気持ちを持つことができるよう、より多くの行事を取り入れてまいります。

大きくて優しいお相撲さんとの経験は、きっと子ども達の心に素敵な思い出として残ると思います。

上がりました。その後、会食室で用意していただいたお雑煮の汁で、やわらかいお餅をいただきました。みんな大満足の昼食となりました。

で答えていただきました。
いよいよ、おもちつきです。蒸し上がったばかりのもち米を臼に移して、杵でまわりをこねて、少しやわらかくしてからお餅をついていきました。お相撲さんが大きな杵を持つと、子ども達から「よいしょ～！」と元気な掛け声がかかります。やはり、力がすごいのでどんどんお餅がつきあがっていきます。目前で見る迫力満点のおもちつきに、子ども達も大興奮でした。次に、子ども達の「おもちつき」を手伝つていただき、お相撲さんとのふれあいタイム。大きなお相撲さん相手に全力で立ち向かう子ども達に、保護者の皆様からも熱い声援が飛び交い、大いに盛り上がりました。その後、会食室で用意していただいたお雑煮の汁で、やわらかいお餅をいただきました。みんな大満足の昼食となりました。

がつたばかりのもち米を臼に移して、杵でまわりをこねて、少しやわらかくしてからお餅をついていきました。お相撲さんが大きな杵を持つと、子ども達から「よいしょ～！」と元気な掛け声がかかります。やはり、力がすごいのでどんどんお餅がつきあがっていきます。目前で見る迫力満点のおもちつきに、子ども達も大興奮でした。次に、子ども達の「おもちつき」を手伝つていただき、お相撲さんとのふれあいタイム。大きなお相撲さん相手に全力で立ち向かう子ども達に、保護者の皆様からも熱い声援が飛び交い、大いに盛り上がりました。その後、会食室で用意していただいたお雑煮の汁で、やわらかいお餅をいただきました。みんな大満足の昼食となりました。



高校2年生 研修旅行

3日目・4日目は、奈良、京都での自主研修です。事前学習をし、実際に行く場所を生徒自身が決めます。訪れるお店に予約をする人、所要時間や交通機関を調べる人、目的地の観光ガイドを作る人など班内で役割分担をして準備を進めました。どの班も話し合いを重ねるにつれて、一人ひとりがメンバーの意見をしっかりと聞き、考えたうえで議論をかわし、皆で協働してオリジナルの散策コースを作り上げました。

本校では、「総合的な学習の時間」において、「生きる力」を養うために各学年テーマを設けて、段階的に学習を進めています。高校1年生の総合的な学習の時間のテーマは「共生」、2年生では、「平和」をテーマに据えて学習していきます。豊かな自然や文化に触れ、過去の歴史を振り返ることにより、自分たちの将来の役割を認識することは重要な学習であると考えています。高校2年生の研修旅行においてもフィールドワークを通して、直接自分の目で確かめながら考えていくという学びを大切にしています。今年度は、世界文化遺産の姫路城や、奈良、京都を廻り、国宝級の文化財や遺産への学びを通して、過去の歴史を振り返るとともに、「平和」であることに感謝し、平和な社会を維持するために、今の自分のあり方と今後の課題について見つめ直し、考える契機としました。

3日目・4日目は、奈良、京都での自主研修です。事前学習をし、実際に行く場所を生徒自身が決めます。訪れるお店に予約をする人、所要時間や交通機関を調べる人、目的地の観光ガイドを作る人など班内で役割分担をして準備を進めました。どの班も話し合いを重ねるにつれて、一人ひとりがメンバーの意見をしっかりと聞き、考えたうえで議論をかわし、皆で協働してオリジナルの散策コースを作り上げました。



: 食事



: 買い物



: カフェ

2班

名所訪問間にグルメ、2日間たっぷりと京都の魅力を楽しみました。

3日目 京都

貴船神社



嵯峨嵐山



嵐山琥珀堂

(京野菜のフレンチ)



ホテル



4日目 京都

清水寺



京都北山ダイニング



(ビュッフェ)



サロン・ド・ロワイヤル



しゃぼん屋



二条城



本能寺



知恩院



見た目も華やかで美しいチョコレートを堪能しました

私のオススメ

貴船神社

入った瞬間に自然の緑の中で、荘厳な赤の建物がとても綺麗でおすすめです。嵐山のトロッコ電車も見晴らしがよくて気分も最高、楽しい時間を過ごせました。



高2

自主研修 おすすめコース

4班

古都の街中を自在に動き、心と身体で文化と伝統を感じました。

3日目 奈良→京都

興福寺



車折神社



嵐山



鈴虫寺



祇園辻利



茶寮翠泉



京煎堂



ホテル



4日目 京都

東福寺



伏見稻荷大社



清水寺



ハッ橋茶屋



本家西尾



八坂神社



知恩院



11班

初日はたっぷり奈良を楽しみ、翌日は京都を満喫。盛りだくさんの2日間。

3日目 奈良

奈良公園



春日大社



天平庵



東大寺



平等院



七條甘春堂 (和菓子体験教室)



ホテル



4日目 京都

伏見稻荷大社



建仁寺



おかげ屋



清水寺



嵐山



知恩院



私のオススメ

和菓子作り体験

上生菓子を4点作り、そのうち1つはお抹茶と一緒に祝い物で、あとはお持ち帰りしました。体験物がある思い出にも残ります。後輩たちにもオススメします。



高校2年生は、自己と向き合い、他人との結びつきを客観的に捉えることのできる年齢です。世界遺産をはじめとする日本の文化財に触れることで、日本文化を継承する責任を担い、4泊5日の旅行を通して、友情を深め、助け合い学び合う力を育むことができました。私たちの住む日本は、70年以上もの間、平和を継承してきましたが、世界に目を向けてみると、内戦やテロなどが繰り返され、多くの人命や文化遺産が失われているという痛ましい事実もあります。中学校・高等学校の誓いの言葉に「平和な世界が生まれるように、みんなで努力いたしましょう」とあるように、これから先、多様な価値観を受け入れ、積極的に社会と関わりをもちながら、生徒たちが「平和」の担い手となってくれることを願っています。

高校2年生は、自己と向き合い、他人との結びつきを客観的に捉えることのできる年齢です。世界遺産をはじめとする日本の文化財に触れることで、日本文化を継承する責任を担い、4泊5日の旅行を通して、友情を深め、助け合い学び合う力を育むことができました。私たちの住む日本は、70年以上もの間、平和を継承してきましたが、世界に目を向けてみると、内戦やテロなどが繰り返され、多くの人命や文化遺産が失われているという痛ましい事実もあります。中学校・高等学校の誓いの言葉に「平和な世界が生まれるように、みんなで努力いたしましょう」とあるように、これから先、多様な価値観を受け入れ、積極的に社会と関わりをもちながら、生徒たちが「平和」の担い手となってくれることを願っています。

研修旅行終了後には、学年集会で各班がプレゼンテーションを行いました。高校1年生の時から準備を始めた班員は、全クラスにわたっていましたので、休み時間や放課後などの時間を有効に使って、まとめの作業を行いました。同じ見学地の発表でも班ごとに視点や切り口の異なるプレゼンテーションで、発表が進められました。お互に新たな気づきもあり、より幅広い知識を深めていくことができました。



街全体がユネスコの世界遺産に登録されているバースでは、「ローマンバス博物館」「ザ・サーカス」「ロイヤル・クリセント」を見学しました。



英国人学生とのスポーツ交流では、途中逆転勝利もあり、会場の盛り上がりは最高潮に達しました。そこで知り合った仲間との交流は今でも続いています。

英國語学研修



各クラスに英国人学生が参加し、授業のサポートをしてくれます。ネイティブな英語に触れ、積極的にコミュニケーションを交わしました。

Stroud College での開校式で、いつも笑顔のジュリー先生と、オレンジ色の髪の毛が印象的なニッキ先生が紹介されました。毎朝のミーティングでスケジュールを確認し、ハイクラスとスタンダードクラスに分かれて、英語研修を行います。午後のアクティビティには2人の先生に、歴史や文化などさまざまなことを教えていただきながら見学をしました。休日には、ホストファミリーと一緒にスコーンやケーキを作ったり、ローラースケートやゴルフを楽しんだり、近所のファミリー・パーティーに参加したりとそれぞれが楽しい時間を共に過ごすことができたようです。

最終日の修了式で、先生から一人ひとりにスコアコメントのついた修了証書が手渡されました。その後のさよならパーティーでは、ホストファミリーを学校に

ホームステイをしながら、より実践的なコミュニケーション能力や、国際感覚の助長を図ることを目的に行ってています。今年は、季節が冬のオーストラリアから夏の英国に変更して行われ、「1人1家庭」でホームステイをしながら充実したプログラムを体験してきました。英国の詩人ウイリアム・モリスが「イングランドで最も美しい村」と語った英国の田園風景が残るコッツウォルズ地方が研修の地です。緊張した面持ちで対面式を終えた生徒たちは、ホストファミリーの温かい歓迎により安心した様子で各家庭へと向かっていきました。





「不思議の国のアリス」の作者、ルイス・キャロルが数学の講師をしていたクライストチャーチカレッジを見学。このカレッジには、有名な映画ハリー・ポッターの撮影でも使われたダイニングホールがあり、生徒たちはあちこちで遭遇するハリー・ポッターの世界へと引き込まれていきました。



さよならパーティー当日。会場の外でファミリーをお出迎えしました。最後の「サンキューレター」は、ホストファミリーに励まされながら、涙を流して手紙を読み上げる感動的なシーンとなりました。



人々の多様な考え方、生活習慣、文化の違いを知ることは、日本人としての誇りを再認識することにも繋がります。本校では、日々の授業や英検等の資格取得のサポートを通して、自分の意見を自分の言葉で発信する英語力を身につけさせ、世界を舞台に活躍できる人材を育成してまいります。

9月の講堂朝礼では、語学研修参加者による報告会が開かれました。その感想の中、「私は、英語が苦手でしたが、先生に勧められて参加しました。大変なことばかりでしたが、この2週間で何とかならないことを何とかする力が、少し身についたような気がします。」と恥ずかしそうに語っていた姿がとても印象的でした。語学研修に参加した生徒一人ひとりから、かけがえのない多くの出会いに恵まれ、たくさんの驚きと発見に満ち溢れた研修であったことが伝わってきました。

グローバル化が進む社会において、招待し、高校2年生が司会進行を務めました。高校1年生は日本から持参した浴衣を着てお点前を披露し、皆様に茶道を楽しんでいただきました。中学生は、日本のインストラーメンやおみそ汁を振る舞つたり、折り紙を折つたり、書道の手ほどきなどもしました。また、会場の入り口でホストファミリーと撮った写真を掲示し、ベストファミリー写真を選ぶコンテストも行われました。生徒たちは、最高のパフォーマンスでお世話になったホストファミリーに「感謝の気持ち」を伝えました。



「初めて★ドキドキ」「挑戦★ワクワク」
「経験★ヤッター」

『川村ワンダーランド』 オープニング セレモニー



川村学園女子大学附属保育園には、通称『川村の森』と呼ばれている場所に、大型アスレチック遊具が設置された庭があります。子ども達の大好きな吊り橋や滑り台の付いているその遊具は木製でできており、開園10周年を過ぎ土台部分が少しづつ劣化し、このまま使用していくれば危険が伴うため、新しい遊具へとバトンタッチすることになりました。



川村の森にあった旧遊具は解体され、今度は保育園のグラウンドに仲間入りしました。たいこばし・吊り橋・滑り台。子ども達の大好きな遊具が勢ぞろいです。名付けて『川村ワンダーランド』。そのオープニングセレモニーが行われました。



川村の森におしゃれをし、年長さんが紅白幕でおしゃれをし、年長さんが心をこめて作ってくれたくす玉が飾られた遊具には、子ども達がこれから体験する「初めてのドキドキ」や「挑戦するワクワク」「経験して味わうヤッタ」感がたくさん詰まっています。くす玉の色は、各クラスの帽子の色で作られています。「皆で楽しく遊べるように」という年長さんの気持ちが伝わってくるようでした。

心地よい風が吹き抜けるグラウンドで、いよいよす玉割りです。くす玉のリボンを引く子ども達は、やや緊張した表情でしたが、全園児に見守られる中、無事にオープン！中から飛び出してきた折鶴達がキラキラ輝く光景に歓声が上りました。これからはこの場所で、たくさん遊びが繰り広げられることでしょう。



グラウンドに出るたび、「あの新しい滑り台、いつから遊べるの？」と聞いていた4歳児は、ついに遊べる日がやってきて「やった！」と大喜びです。遊び始めると、「今度はこっちから登つてみよう！」「滑り台はジエットコースターみたいだ！」と楽しさ全開の声があふれています。



「滑り台、だんだんスピードでるんだよ。」「たいこばし、始めはちょっとこわかった。」など楽しかった感想を、笑顔いっぱいで話してくれました。



「怖いからみてる。」と言っていた3歳児は、「ゆっくり乗ってみようよ。」との声掛けに励まされ、チャレンジしました。「先生、登れたよ。」やつてみたら、思っていたよりも怖くなかったようで、笑顔いっぱいで教えてくれました。そして、次々に挑戦し始めた子ども達は、「この滑り台おもしろい。」「吊り橋、片手で渡れたよ！」と夢中になつて遊んでいました。



まだまだ、0～2歳の子ども達は、使えないけれどお兄さんお姉さん達が遊んでいる様子を見ながら、いつか遊べる時期になつたらこの場所で、新たな楽しみを見つけていくことでしょう。

手や足、体全部を使って楽しむ遊具で元気に遊ぶことで、お友達との関わりを築いたり、体力作りに役立つてほしいと願いながら、『川村ワンダーランド』は今日も子ども達が遊びに来るので、お待ちしています。

早々に体験した5歳児は、「ここに使いたい方かいてある。」と遊具の所々に書いてある注意事項を発見し、指をさしながら読み上げ皆で確認してから遊び始めました。

「吊り橋にドキドキしました。」「滑り台、だんだんスピードでるんだよ。」「たいこばし、始めはちょっとこわかった。」など楽しかった感想を、笑顔いっぱいで話してくれました。

3歳児は、「ゆっくり乗ってみようよ。」との声掛けに励まされ、チャレンジしました。「先生、登れたよ。」やつてみたら、思っていたよりも怖くなかったようで、笑顔いっぱいで教えてくれました。そして、次々に挑戦し始めた子ども達は、「この滑り台おもしろい。」「吊り橋、片手で渡れたよ！」と夢中になつて遊んでいました。





①三内丸山遺跡 6年生は春の夢科学習で尖石に、今回の修学旅行で三内丸山、大湯環状列石と、日本にある4ヶ所の縄文時代の特別史跡のうち、3ヶ所を見学しました。



東北の風土に息づく歴史や文化に触れて 修学旅行



6年生は9月5日から8日まで修学旅行に行きました。今年度から、行先を京都・奈良から東北地方に替えての3泊4日です。歴史と文化、そして自然の学習がテーマとなる旅行となりました。まずは、歴史と文化についてです。6年生は、社会の授業で歴史を学習しています。教室で学んだことを、実際に自分の目で見て経験することで、興味関心を深めることができました。

1日目、特別史跡三内丸山遺跡に行きました。三内丸山遺跡は、日本最大級の縄文集落跡です。発掘調査によって当時の自然環境や生活、ムラの様子などの解明が進められています。竪穴住居跡や貯蔵穴、ごみ捨て場、お墓、道路跡など、集落全体の様子や当時の自然環境などを見ることができ、縄文時代の人々の生活について確認をすることができました。

2日目に行つた特別史跡大湯環状列石は、ストーンサークルとも呼ばれています。河原石を菱形や円形に並べた組石の集合体が、外帶と内帶の二重の同心円状（環状）に配置されている配石遺構です。こちらは祈りとマツリの場と考えられており、三内丸山遺跡のような生活の場とは違った縄文遺跡を見ることができました。

そして4日目。「平泉の文化遺産」として世界文化遺産に登録されている、中尊寺を訪れました。奥州藤原氏のゆかりの寺として知られる中尊寺、特に金色堂は、その輝く建物、美しい仏像や螺鈿細工に児童たちは心奪わっていました。



⑥鹿踊り鑑賞 鹿踊りは、心ならずも命を失ったものの怨念を鎮魂し、祖靈精霊の供養のために始まったとされています。宮沢賢治も好んだという伝統舞踊を鑑賞しました。



⑤尾去沢鉱山 1300年の歴史を誇る鉱山を見学しました。近世から近代の鉱業の変遷を見学することができました。



③十和田湖遊覧船 子ノ口から休屋まで遊覧船に乗船し、豪快にして織細な十和田湖の魅力を感じることができました。スクリューに巻き上げられる水の迫力も魅力的でした。



④奥入瀬溪流散策



次に、自然についてです。

1日目に、特別名勝及び天然記念物に指定されている、奥入瀬溪流を散策しました。深い自然林におおわれ、千変万化した。深い自然林におおわれ、千変万化の水の流れが生む躍動感あふれる景観に、身も心も洗われるようでした。

2日目は、世界自然遺産に登録されている白神山地へ向かいました。人為の影響をほとんど受けていない世界最大級の原生的なブナ林が分布し、この中に多種多様な動植物が生息・自生するなど、貴重な生態系が保たれている場所です。児童たちは、ガイドさんのお話を聞きながらトレッキングをしました。自然界の共生や水の循環など、ブナ林の役割を学ぶことで、自然の偉大さや生命力を体感するとともに、自然と人間との深い関わりを学びました。

この他、車窓からは八甲田山や岩木山、岩手山などの山々、黄金に輝く稲穂、青森のりんご畑など、東北の雄大な自然を見ることがありました。

東京で生活をしていると、自然の美しい姿を見ることはなかなかできません。そのような中、かつては存在した日本各地の生活そのもの、日本の原風景を見るっていました。

今回の修学旅行では、日本の歴史や文化、自然に触れることで、日々の授業では決して得られない素晴らしい体験をすることができました。自然や環境というものが、人々の暮らしや生き方に与えた大きな影響力を学ぶ機会にもなりました。この経験を、今後の学校生活に活かしてもらいたいと思います。



⑦猊鼻渓 国の名勝に指定された猊鼻渓。高さ 50 m を越える石灰石の岸壁が続き、至る所に奇石や滝が点在する中、舟下りをゆったりと楽しみました。



⑧平泉 中尊寺 中尊寺は、国の特別史跡であり、世界文化遺産にも登録されている天台宗の東北大本山の寺院です。この地を歩き、奥州藤原氏のもとで花開いたひとつの文化を体感することができました。

保育者養成における「ひと・もの・こと」に出会う 体験型学習プログラムに関する実証的研究

多様な「ひと・もの・こと」に 出会うプログラム



一人ひとり工夫して、魚やタコなどの海の生き物がたくさんできました。子どもたちが喜んでくれるのが楽しめます。



浴衣の着付け練習会：保育園や幼稚園では、夏期保育の時に浴衣を着ることがあります。日本の夏の風物の浴衣を一人で着られるようになるまで練習をします。



できあがり！ 素敵な後姿、いかがでしよう。



【附属保育園の夕涼み会へ参加】

大学に隣接する附属保育園の夕涼み会に参加しました。夕涼み会の準備として、1年生は大学教員の指導のもとに紙で魚を製作しました。夕涼み会への参加なので、皆で浴衣の着付けを事前に練習し、当日は浴衣で参加しました。また、子ども達にも大人気の魚釣り遊びを楽しんでいました。

【植物栽培と飯盒炊爨】
野菜を栽培、収穫するだけでなく、調理まで行います。入学した1年生は、皆

幼稚教育学科では、平成24年度より、多様な「ひと・もの・こと」に出会うプログラムとして、「幼稚教育体験学習」を初年次必修科目の中に設定してきました。これは、本学科が目指す「子どもと共に生きることができる自覚ある保育者」「全ての「ひと・もの・こと」に感謝できる保育者」を育成することを目的に、本学独自のオリジナリティ溢れる科目として実施されている実践型・体験型の講義です。

その内容は毎年同じではなく、少しずつ異なる内容で構成されていますが、いずれも保育者になつた時に役立つ内容で、具体的な体験を伴うものとなっています。主たるものとしては、子育てに関わる多様な人々の話を聞く、植物栽培や調理などの経験をする、園での保育活動に不可欠な生活経験をする、本物の芸術や文化に触れるといった活動が行われています。



共同作業での助け合い。さらに友情が育まれます。



ミニトマト、きゅうり、藍、マリーゴールド、小玉スイカ、オクラ、ラベンダーの苗植えをしました。
カエルやミミズに驚きながらも、最後の片付けまで頑張りました!!



火を絶やさないように皆でバトンタッチして、作った焼き芋。
その美味しさは格別なものでした。



この日は改めて清掃の仕方を学び、感謝を込めて、ていねいにお掃除をします。



国立科学博物館にて



【附属保育園での体験学習】

1年生全員に加えて、保育内容領域環境を受講するの3年生の有志も一緒に、上野の国立科学博物館に出かけました。普段なかなか見られない自然史や、科学の発展の歴史を見て回り学習を深めました。年度によっては水族館や動物園にも出かけます。

これらの活動は、体験学習のごく一部です。乳幼児は、保育園や幼稚園の先生やお友だちと一緒に、様々な動植物と身近に接したり、日本の文化や伝統に触れたりしながら、生活経験を豊かにしています。大学初年次におけるこうした基礎的な学びが、4年間の専門的学習の土台を支え、川村学園の建学の精神を、心身を通して学ぶことになっています。



西川祐子（にしかわ ゆうこ）先生 人間国宝西川扇蔵の技を受け継ぐ。
「鶴雅祭」では履修生で日舞の学習成果を披露します。



竹内啓（たけうち さとる）先生 日本のルーツをアートを通して探ります。
芸術家であり、本学の教員でもいらっしゃいます。



日本文化学科実技科目 身体を通して文化を学ぶ



小澤宗誠（おざわ そうせい）先生 裏千家。
NHK大河ドラマでの茶道の指導も担当されていました。



橋本匡朗（はしもと ただあき）先生 日展等、数々の展覧会で受賞歴をお持ちです。書道サークルでもご指導いただいているます。

これらの芸道・芸術は幾年月もの間、人から人の手へ、継ぎ送られてきたものです。なぜ、それらは人びとに支持されてきたのでしょうか。そこにはなにかを美しいと思う心があり、また、美しさの体現への熱意があります。また、それに取り組むことの「楽しさ」があるからこそ、人びとはそれらの「道」を絶やさず、「型」を受け継いできたのです。そのような心や熱意、楽しさをることは、日本文化を担い、国際社会に発信できる人材を育成する上で不可欠の経験になるはずです。



和久莊太郎（わく そうたろう）先生 宝生流の一翼を担う若き能楽師として、ご活躍中です。

日本文化学科での学びの特徴は、多様な視点と方法による日本文化へのアプローチにあります。特に、座学だけでは得られない実感を通してした学びを重視しています。そのような方針のもとで開設されているのが「実技科目」です。日本文化のなかで育んできた「型」、それを支える「感性」や「技巧」、その背後にある「思想」に、自身の体を通して迫るために、「書道」（橋本匡朗先生）、「日本舞踊」（西川祐子先生）、「茶道」（小澤宗誠先生）、「華道」（園基大先生）、「日本画」（竹内啓先生）、「能の仕舞・謡い」（和久莊太郎先生）といった科目を設けています。学生たちは4年間のうちに、上記のうち3科目を履修することが卒業要件になっていますが、「ぜんぶ受講します！」という学生も少なくありません。

先生方はどのような理念のもとで学生たちを指導くださっているのでしょうか。今回は華道をご担当の園基大先生に、ご指導に際する思いをご寄稿いただきました。

いま、華道にふれることの意義

園 基大

私たちはインターネットを介して何時でも、何処にいても何億もの人々と国の壁を越えて情報を共有することができます。驚くべき時代に生きてています。この四半世紀のうちに急速に発達したこのシステムは、世界に「平均化」をもたらしつつあります。溢れるほどの情報量に翻弄され、意図的であれ何であれ、大きい情報が選択され、小さい情報はその渦に飲まれていきます。日本は経済的には世界に影響のある国ですが、いわゆる伝統的な日本文化は、国内においても難しい立場におかれつつあるように感じます。

華道の「型」というものは江戸時代に完成されました。が、この姿や活け方は三〇〇年も後の現代に生きる我々の心を打ち、しかも日本人のみならず海外の方の心にも届く美しさを備えています。この時を超えた、また国境を超えた美の源泉はどこにあるのでしょうか。

私は「型」の根底にある、日本の風土に根差した「生命観」にこそあると思っています。森羅万象に神が宿り、豪奢さよりも「清らかさ」を最も重視する、日本人の心です。それは、「祈り人」としての天皇に象徴されるかもしれませんし、白木の神社建築や祭礼、もしかしたら四季の移ろいに見出すことができるかもしれません。

青山御流は、その日本人の持つ「生命観」を花に託して伝えてきた華道です。そして今後世界が「平均化」していく時にこそ輝く日本の文化の本当の美しさを、将来を担う学生の皆さん的心に残せたらと思い、日々手直しをさせて頂いております。



学期末には学習成果の展示会を開催しています。



園基大（その もとひろ）先生
皇室ゆかりの花の心を今に伝える青山御流（せいざんごりゅう）の副家元です。



学生作品



園先生による指導風景。

制服リサイクル ～長く愛される伝統の制服～



川村文子先生は、創立もない大正13年5月に、当時としては大変めずらしいセーラー服を制服に採用いたしました。最初に採用されたデザインから、全体のシルエットや素材などさまざまに変化を重ねてまいりました。「川」の字をデザインした3本線のセーラー服は、創立以来変わらずに代々受け継がれ、川村学園のトレードマークとなっています。

川村文子先生は、創立もない大正13年5月に、当時としては大変めずらしいセーラー服を制服に採用いたしました。最初に採用されたデザインから、全体のシルエットや素材などさまざまに変化を重ねてまいりました。「川」の字をデザ

インした3本線のセーラー服は、創立以来変わらずに代々受け継がれ、川村学園のトレードマークとなっています。

この伝統ある制服に身をつみ、子ども達は毎日の学校生活を送っています。ただ、成長にしたがって、制服に関してはサイズが合わなくなるという悩ましい

物に溢れた豊かな時代に生きる私たちにとって、一つの物を長く使い続けることは、物を慈しむ心を養うことにつながります。創立者が制服に込めた精神や伝統を大切にし、制服を正しく着用することで、自立した女性にふさわしいマナーや品格を身につけてほしいと願っています。

事態も起ります。そこで、川村学園同窓会の皆様の力を借りて、在校生や卒業生よりご厚意でお譲りいただいた制服を、必要とされる方にご利用いただく「制服リサイクル」を鶴友祭で行っています。

変わら放課後の過ごし方 ～安全と安心を最優先～



川村小学校では、アフタースクール・セミナーや鶴友会活動、毎週月曜日の「学校開放日」を設けるなど放課後活動の充実に取り組んでまいりました。学校の施設を最大限利用して、安全な遊び場所を提供するとともに、遊びをとおして異年齢同士が交流することで人間関係づくりの基礎を養います。

平成29年度から川村学園では、小学校のすぐ近くにある習い事付き民間学童「ウイズダムアカデミー目白校」と提携いたしました。これにより、放課後の3時間を基本に最長22時までの預かり、希望者には夕食の提

供もしていただくことで、児童の居場所を確保することができるようになりました。学校の宿題サポートや高水準のプログラミング、オプションレッスンで珠算やアートなどの習い事への参加も可能となっています。この提携事業は、川村小学校の児童だけでなく、川村幼稚園の園児も特別価格でご利用いただけます。

お預かりしているお子様がのびのびと生活できるように、さまざまなご家庭に寄り添える教育環境をこれからも模索してまいります。

